



文化庁

Agency for Cultural Affairs

平成26年度

文化庁文化芸術振興費補助金
(トップレベルの舞台芸術創造事業)



Orchestra Ensemble
Kanazawa
with
Chorus
Ohyama
2014

第19回演奏会

オーケストラ・アンサンブル金沢 with 合唱団おおやま 定期公演

と き / 2014年 8月 24日(日) 13:30 開場 14:00 開演 ところ / 富山市大山文化会館

〔主催〕(公財)石川県音楽文化振興事業団、富山市、「オーケストラ・アンサンブル金沢 with 合唱団おおやま定期公演」実行委員会 〔共催〕北日本新聞社 〔後援〕FMとやま



混声合唱曲 岬の墓

作詞/堀田 善衛
作曲/團 伊玖磨



弦楽のための三楽章

TRIPTYQUE for String Orchestra

作曲/芥川 也寸志

[第1楽章] Allegro

[第2楽章] 子守歌 (Berceuse) Andante

[第3楽章] Presto



J-POP

編曲/倉知 竜也

[1] 粉雪 (レミオロメン)

作詞・作曲/藤巻 亮太 編曲/若林 千春・倉知 竜也

[2] I believe (絢香)

作詞/絢香 作曲/西尾 芳彦・絢香 編曲/倉知 竜也

[3] さくら (森山 直太朗)

作詞/森山 直太朗・御徒町 凧 作曲/森山 直太朗 編曲/倉知 竜也

[4] Jupiter (平原 綾香)

作曲/Gustav Holst 作詞/吉元 由美 編曲/松下 耕・倉知 竜也

[5] 鳥唄 (THE BOOM)

作詞・作曲/宮沢 和史 編曲/倉知 竜也



Sunrise Mass サンライズ・マス

混声8部合唱と弦楽オーケストラのための交響的ミサ曲

作曲/Ola Gjeilo (ウーラ・ヤイロ)

[1] The Spheres

[2] Sunrise

[3] The City

[4] Identity & The Ground

山下 一史 (指揮)

1984年桐朋学園大学卒業後、ベルリン芸術大学に留学。1986年ニコライ・マルコ国際指揮者コンクールで優勝。

カラヤンのアシスタントを務め、急病のカラヤンの代役としてシーズン姿で指揮し、話題となる。ヘルシンボリ響(スウェーデン)首席客演指揮者、九響常任指揮者、大阪音大ザ・カレッジ・オペラハウス管常任指揮者などを歴任、2008年4月同団名誉指揮者就任。2006年仙台フィル指揮者就任、CD制作を行うなど積極的な活動を展開。2009年4月から2012年3月まで同団正指揮者。2009年4月セントペテルブルク響定期に出演、大成功を収めたほか、2011年2月にはシューマン:歌劇「ゲノフェーファ」日本舞台初演や、2013年1月には水野修孝:歌劇「天守物語」を行うなど、着実な成果を上げている指揮者として注目を浴びている。



1

堀田善衛(1918~98)は、高岡市生まれの芥川賞作家、評論家。

團伊玖磨(1924~2001)は、作曲家、エッセイスト。團は、東京音楽学校(現東京芸大)における芥川也寸志の1年先輩。1953年、芥川、黛敏郎とともに「3人の会」を結成している。

この曲は1963(昭和38)年の第19回芸術祭参加作品として初演され、芸術祭賞と文部大臣賞を受賞した。「入江の青」に休らう「白い美しい船」と、「白い墓」の下にある「暗き休らい」。2つの光景を行き来するように、それぞれの主題が繰り返し現れる。そして、曲の終わりに語られる「赤い花」。團は、「これは深い詩である。」と述べ、「作曲に当たって、あらゆる表面上の製飾を排除すること、骨格を重視した、簡潔な手法を執ること」を自分に課したと述べている。

2

芥川也寸志(1925~1989。芥川龍之介の三男)が1953(昭和28)年にNHK交響楽団常任指揮者クルト・ヴェスの委嘱により作曲した弦楽合奏曲。同年12月ヴェス指揮、ニューヨーク・フィルによりカーネギー・ホールで初演された。「三連画」を意味する「トリプティック」という題名でも知られる。1955年、ワルシャワ音楽賞受賞。

第1楽章 曲の冒頭から全合奏で突進するような力強い主題が奏される。この主題のリズム音形(♪)は、この楽章の様々な箇所でも顔を出す。

第2楽章 作曲当時5歳だった長女のために書かれた5/4拍子の子守歌。1:3楽章と対比をなす叙情的な楽章。中間部では楽器本体を手で叩く「Knock the body」という特殊奏法が用いられる。

第3楽章 よく「祭ばやしの大鼓のような」と表現される変拍子の主題で始まる。芥川自身は作曲時代に近所の神社から聞こえてきた御神楽から想を得たと語っていた。

3

おなじみのJ-POPを作曲家倉知竜也氏に合唱+ピアノ+弦楽オーケストラの編成に編曲していただいた。粉雪、Jupiter、島唄は、6年前の第13回演奏会で演奏したものの再演であり、今回は、新たにI believeとさくらを加えた。

粉雪……2005年発売。ドラマ「1リットルの涙」の挿入歌に使用され、発売前から大きな話題となった。レミオロメンは、山梨県笛吹市出身の3人組のバンド。2000年結成。若林千春の編曲により、原曲とは違い、サビの部分の音程が2度下に転調している。

I believe……絢香のデビュー曲。2006年発売、当時絢香は高校3年生だった。親友のフィギュアスケーター安藤美姫が06-07年のエキシビジョンでこの曲を使用していた。「自分を信じることですべてが始まる」という凛(りん)とした少女の決意に勇気づけられる思いがする。

さくら……森山直太朗の2枚目のシングル。2003年発売。その年以降の卒業式や予餞会で多く歌われたが、元々は森山の友人の結婚をきっかけとして作られたもの。

Jupiter……グスターヴ・ホルストの管弦楽組曲「惑星」の第4曲「木星」の有名な主題をモチーフにして、詞をつけたもの。2003年発売。当時現役音大生だった平原綾香のデビュー曲。2004年の新潟県中越地震の際、被災者を励ます応援歌として、新潟県内のラジオ局で多くリクエストされた。

島唄……甲府生まれの宮沢和史が何度も沖縄を訪れるうちに、沖縄の文化とその美しい風景の裏にある悲しい戦争の歴史に胸打たれて書いた曲。三線(さんしん)を取り入れ、琉球音階で書かれたこの曲は、アルゼンチンなど海外でも大ヒットした。1992年、沖縄の方言によるウチナーグチ・ヴァージョンが沖縄で大ヒット。標準語のオリジナル・ヴァージョンが1993年全国で発売された。

4

ウーラ・ヤイロ(1978~)は、ノルウェーのピアニスト・作曲家。民謡、クラシックからジャズ、映画音楽まで幅広いジャンルで活躍しており、合唱作品は、無伴奏の宗教作品を中心に数多くの曲を生み出している。

「サンライズマス」(2008ノルウェーのオスロで初演)は、和訳すれば「日の出のミサ曲」である。各楽章も英語の題名がつけられているが、歌詞は通常のミサ曲と同じく、ラテン語のミサ通常文が使われている。この題名について、ヤイロは、「私はこの典礼が音楽として、最も透明で宇宙的なものから、完全に地上的で今生の生に根ざした何ものかへと、発展するようにしたかったのです。」と述べている。

The Spheres(球) - Kyrie 題名の球とは、地球を指しているのだろう。冒頭の2群に分けられた合唱とオーケストラの2つの和音の交錯により生まれる刹那の揺らぎのようなものは、「宇宙的なもの」という作曲者の言葉を思い起こさせる。

Sunrise(日の出) - Gloria 緩急緩の3部構成。前後部は穏やかに、中間部では喜びに満ちたリズムカルな音楽で、神を称える「栄光の賛歌」が歌われる。中間部に現れるIesu Christe(イエス・キリスト)という言葉に当てられた短和音が印象的。

The City(都市) - Credo 終始短調で、敢えて華美なメロディを排し(後半にKyrieの主題が繰り返し現れる。)、典礼文をとこなえるように歌う散文的な音楽になっている。Crucifixus(十字架にかけられ)ではKyrieの主題がffで合奏され、一旦取まった後、音楽はどんどん激しく、悲痛になっていく。神を称える祈りの言葉である他の典礼文と違い、Credoは、異端を排し、キリスト教の正しい教義を私は信じると宣言する信仰宣言であることを、この音楽は表現しているのであろう。

Identity & The Ground(自己同一性とその根拠) - Sanctus~Agnus Dei 第1楽章冒頭の2群の合唱の再現でSanctusが歌われる。Pleni suntからは、第3楽章と対照的に静かで明るい曲となり、その後転調をすることに輝きを増していく様子は、まさに日の出のようだ。

Chorus Ohyama 合唱団おおやま

95年8月に旧大山町民を中心に結成。
96年8月に第1回の「夏のメサイア」を公演。以来、毎年夏に
オーケストラとの共演による公演を重ね、今回が19回目の演奏会となる。
富山市大山文化会館で、毎週水曜日夜7時30分から、練習を行っている。

<http://ww2.ctt.ne.jp/~ohyama/>

合唱団おおやま

検索

合唱団おおやまでは、団員を募集しています。
初心者大歓迎。随時、練習の見学を歓迎します。
お問合せは富山市大山文化会館(076-483-0001)まで。

ソプラノ

飯田 三千代
岩竹 幸絵
岡本 洋子
谷崎 千紗
谷崎 千鶴
千葉 多恵
津田 玉美
山崎 忍

アルト

麻畠 利子
井口 洋子
井上 澄子
岡本 祀子
岡本 智子
桶谷 道子
奥野 知子
片山 美富里
木村 まゆみ

五井 礼子
小島 久美
高木 茂子
仲井 葉子
中川 律子
原田 栄子
平崎 康子
村椿 伸子

テノール

飯田 泰三
井内 学
岩田 篤司
大崎 晴夫
津田 朋信
廣野 正和
牧 重和
三羽 康嗣
山崎 勝幸

バス

上田 慎一
谷崎 修一
野入 豊光
松井 輝
丸山 隆

合唱指揮 内山 太一

武蔵野音楽大学声楽科卒 ミュンヘン国立音楽大学卒。
シューベルトの三大歌曲集等ドイツ歌曲のリサイタルを数多く開催。
藤原歌劇団公演のオペラやメサイア、ベートーベン第九など数多くの
コンサートに出演。
1993年再度一年間ドイツに留学。
合唱団おおやま、入善混声合唱団、男声合唱団「ジョイフル・フレンズ」、
北アルプス混声合唱団、黒部第九を歌う会、
大地の会 女声合唱団うたごえサークル等の指導
声楽研究グループ大地の会主宰
元武蔵野音楽大学声楽科講師
元洗足学園魚津短期大学声楽家講師
富山県上市町にて内山音楽教室を主宰

ピアノ 村上 麻理

洗足学園音楽大学ピアノ専攻卒業。同大学専攻科修了。黒田素子、
増田真理子、マックス・エッガー、横山幸雄、加藤徹の各氏に師事。
1991年~1996年富山広域圏文化交流事業クラシックシリーズ・富
山テレビクラシックシリーズにてソロリサイタル出演。
1998年~2001年新ブダペスト弦楽四重奏団とシューマン「ピアノ五重奏曲」を共演、日本・
ポーランド国交樹立80周年記念。
コンサートショパン物語出演、ルビンシュタイン弦楽四重奏団とピアノ五重奏曲を共演。
また、室内楽、歌曲、管楽器等の伴奏でも活躍している。2005年立山町音楽協会招待音
楽会で「とやまレディーズ・オーケストラOASIS」とモーツァルトのピアノ協奏曲を共演。
2012年NHK富山の朗読会に女性アナウンサーとコラボレーションで演奏。
2005年富山県芸術文化協会奨励賞表彰。現在、富山県立保育専門学院非常勤講師・ミヤ
コ楽器店ピアノ科指導講師、富山県ピアノ指導者協会委員・合唱団おおやま・立山町合唱団
コロバスターレピアニスト。



Orchestra Ensemble Kanazawa

オーケストラ・アンサンブル金沢

オフィシャルサイト <http://www.oek.jp/>

1988年、世界的指揮者、故岩城宏之が創設音楽監督（現在、永久名誉音楽監督）を務め、多くの外国人を含む40名からなる日本最初のプロの
室内オーケストラとして石川県と金沢市が設立。2001年金沢駅前に開館した石川県立音楽堂を本拠地とし、世界的アーティストとの共演による
定期公演や、北陸、東京、大阪、名古屋での定期公演など年間約110公演を行っている。昨夏、シュレスヴィヒ=ホルシュタイン音楽祭（ドイツ）
への4度目の招聘、初のエストニア公演を含む16度目となる海
外公演を実施。設立時よりコンポーザー・イン・レジデンス（現
コンポーザー・オブ・ザ・イヤー）制を実施、多くの委嘱作品
を初演、CD化している。ジュニアの指導、学生との共演、邦
楽との共同制作などオーケストラ育成・普及活動にも積極的に
取り組んでいる。ドイツグラモフォン、ワーナーミュージックジャ
パン、エイベックスクラシックスなどメジャーレーベルより90枚
を超えるCDを発売。07年1月より、指揮者の井上道義を新音楽
監督に迎え、新たな活動を展開し、注目を集めている。08年よ
り毎年開催されている世界的音楽祭「ラ・フォル・ジュルネ金沢」
の中心的役割を担っている。昨年設立25周年を迎えた。

